

海上自衛隊員として 基本とすべきこと

サービスの宣誓

私は、我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し、日本国憲法および法令を遵守し、一致団結、厳正な規律を保持し、常に徳操を養い、人格を尊重し、心身を鍛え、技能を磨き、政治的活動に関与せず、強い責任感をもって専心職務の遂行に当たり、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえることを誓います。

自衛隊法施行規則 第39条

自衛官の心がまえ

- 使命の自覚
- 個人の充実
- 責任の遂行
- 規律の厳守
- 団結の強化

自衛隊法に定められた義務

- 指定場所に居住する義務
- 職務遂行の義務
- 上官の命令に服従する義務
- 品位を保つ義務
- 秘密を守る義務
- 職務に専念する義務

自衛隊法 第55～60条

我々に求められる資質

シーマンシップを精神的基盤とし、個々の隊員が強い使命感と責任感をもって、持ち場を守り、職務を全うする。

シーマンシップとは、古くは帆船時代の航海術を起源として、今日まで、長年にわたり艦船の運用を中心として培われてきた経験や知恵を基とした「海という大自然が作り出す千変万化する多様な状況に柔軟に対応するための動作・躰」である。

「海上自衛隊員勤務指針」は、「海上自衛隊員としての基本」に立ち返り、「海上自衛隊の存在意義」を再確認し、「海上自衛隊員総員が一体となって進むべき方向」を示したものです。

皆さん一人一人がこの指針を手元に置き、折に触れて見返すことで、日々の勤務における自らの在り方を顧み、自らの意思によって具体的な行動や言動へと反映していくことを期待します。

海上自衛隊は、我が国の防衛を果たすための実力をあずけられた組織であり、これにふさわしい力量、精強さを磨き続けなければなりません。

また、実力組織であるからこそ、法令や社会のルールを守り、日々誠実さを示すことによって、国民から信頼される組織となる必要があります。

より精強で、より誠実な海上自衛隊を作り上げるため、一丸となって取り組んでいきましょう。

海上幕僚長 海将 齋藤 聡



勤務指針



ホームページ



自衛隊倫理教本

令和6年12月作成



海上自衛隊員勤務指針 JMSDF Sailors Guide

より精強に

より誠実に



海上自衛隊の存在意義

我々の使命

我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、主として海において、我が国を防衛するとともに、必要に応じ、公共の秩序の維持にあたることにある。

我々が達成すべき目標

- **我が国の領海および周辺海域の防衛**
我が国が攻撃され、攻め込まれることを防ぐ。攻め込まれた場合には、撃退する。
- **海上交通の安全確保**
我が国にとって必要不可欠なタンカー等の船舶が、安心して海上交通路を航行し続けられるようにする。
- **望ましい安全保障環境の創出**
すべての国がルールに基づき、海洋などを自由に、安心して使えるような安全保障環境を創り出すことに貢献する。

目標を達成するための我々の活動

- **環境の形成**
我が国の平和や安全を脅かされることが起きないように、安全保障環境を改善し続ける。
例えば・・・国際緊急援助活動、防衛交流、能力構築支援
- **平素からの対応**
我が国の平和や安全を脅かすような事態が発生することを防ぐための活動、発生した事態が悪化することを防ぐための活動を、日常から積極的に行う。
例えば・・・警戒監視、海賊対処行動、共同訓練
- **有事への対応**
我が国が攻め込まれた場合に撃退する。

海上自衛隊員総員が一体となって進むべき方向

我々はどうあるべきか

より精強となる

- **海上防衛力の根幹である「人」**を募集し、育成し、活用する取り組みを強化する
- **常日頃からの備え**によってあらゆる事態に**即応**し、かつ**持続的に対処**できる態勢を整える。
- **新たな戦い方へ対応**するため、自衛隊の統合運用、海上保安庁等との連携、米海軍等との共同を強化する。また、新たな装備品や運用構想等に関する研究と開発を促進する。

より誠実となる

- **自分の仕事に「誠実」**に取り組み、「誠実」に持ち場を守る。
- **上司、部下、先輩、同僚、後輩に「誠実」**な態度で接する。
- **国民に対して「誠実」**に対応する。

「より精強」で「より誠実」となるため我々は何を努力すべきか

隊員 ～個人の発展～

隊員が活躍できるように

- ・教育訓練の充実
- ・多様で効率的な働き方
- ・勤務環境の改善



チーム ～連携の強化～

チームとして活躍するために

- ・部隊としての練度向上
- ・統合運用における貢献
- ・関係省庁、研究機関、防衛産業等との連携の強化
- ・同盟国、同志国海軍等との共同・協力の推進



システム ～システムの充実・活用～

隊員・チームの活躍を支えるために

- ・先端技術の装備品等への反映（省人化、無人化等）
- ・現有システムの最大活用

